

# 常なる磐

つねなる いわ

令和3年1月29日(金)  
その1

## ◇ 児童用ロッカーの話①

まず写真をご覧ください。教室後方の児童用ロッカーを撮影した写真である。

<◎年生>



<◆年生>



<□年生>



<★年生>



<☆年生>



<▼年生>



<1/21(木) 1 限時 予告なしに撮影>

ロッカーに納めるランドセルの向きや個人の水筒を置く場所など、各学級の「きまりごと」はある。しかし、大事な部分は6学年に通ずる共通事項があるということ。ロッカーの状態(写真)を見れば、分かっていただけのことだろう。

学校では、1年が修了すれば、当然のことながら学年が1つ上がる。本校のような学年1学級の小規模校では、新年度を契機に学級担任が変わることも多い。担任が変われば、当然のことながら指導法も変わるわけで、小さな「きまりごと」の変化はある。大切なことは、「指導の本筋が1本」であること。つまり、「指導の本筋が同じであること」だ。

本筋の変化は子供を混乱させ、子供を困らせる。困るのは指導する教師ではなく、学校生活を送る児童なのである。

本校は、この「指導の本筋」「指導の根幹」がしっかりしている点が大変よい。6名の学級担任間のコミュニケーションが取れ、連携が図られている証でもある。

★共通事項：【整頓を重視】していること

学級を落ち着かせる最重要事項は、子供が生活する教室を整えることである。「ゴミが落ちている」「物品が整頓されていない」教室は、子供の心を荒（すさ）ませる。よって、「きれいである」「整えて当然」の意識を育ませ、実践させることが学級を安定させる鍵となる。

だから中学校での担任時代は、徹底的に公共の場である「教室の整頓の意識」を高めるよう指導した。

生徒用ロッカーで言えば、体育館シューズを入れる袋の整頓。紐を手前ではなく、奥に向ける。納めるのも、取り出すのにも一手間要るが、一手間要ることが重要なのだ。無造作に「ぽん」と放り込んだのではなく、整える意識がないとできない。さらに、見た目が全く違う。紐が手前にあると、いびつな形状の袋の紐がロッカーからだらりと下方に落ちるのがほとんど。

30 のロッカーがこの状態だと、見られたものではない。引っ掛かりやすいから、安全性にも問題が残る。こうした教室で過ごして居れば、見る間に生徒の心が荒んでいく。反対に1つだけなら、その1つが目立つ。目立つからいいのだ。

目立つから、意識して実践している多くの子供の誰かがそっと直す。意識しているから、その直し方も丁寧だ。中学生ともなれば、ロッカーの状態を見て、誰かがやってくれたことに気付く。そうすると、こちらが何も言わずとも実践するようになる。

変化に気付かない生徒も稀にいる。しかし、しばらく続けていれば、気付く時が来るのがほとんどだ。それでも気付かなければ、ここが教師の出番。ずっと学級の誰かがやってきたことを当人に伝えてやればいいのだ。こうして事実を知った生徒は、間違いなく大きく変わる。

これが【自浄】なのである。

対して、小学生にはしっかり教えることが指導の鍵となる。しっかり教えて、丁寧に指導していく。そうすると知らないうちになるようになる。意識しなくとも、無意識でやれるようになる。だから小学校の担任は、根気・粘り強さが必要。そして、これができるところが、本校担任陣の力量の高さと言える。

下段左の★年生。3人の児童とも、ランドセルの肩紐を意識して子供がロッカーに納めたことが分かる。担任の継続・徹底した指導の跡が見える。

上段左の◎年生と下段右の▼年生の写真。ランドセルに付けた防犯ブザーが落ちないように子供が対応したのだろう。子供の丁寧な心遣いが見える。

そして何より、6学級に統一感があるのがいい。同一学級のように見える。

この統一が「指導の本筋・根幹」であり、担任が変わったところで子供を混乱させないし、6年間の継続した指導がプラスの習慣を身に付けさせるのである。